

4-5 表示

等高線などの表示や印刷に必要な設定を行います。4-5-3以外の設定は印刷にも用いませ

4-5-1 表示の設定 (等高線等)

2次元スペクトルはピークの高さを段階に分けて表示します。通常は等高線のみで表示させますが、べた塗りで段階的にも表示させることも出来ます。

「表示形式」：べた塗りの時は「色階調表示」を、等高線のみの際は「等高線表示」を選びます。(図4-50)

「等高線の設定」：等高線の数を設定します。この数は正側・負側の両方の合計です。従って、絶対値表示の時は正側しか表示されませんから、この数の半分しか表示されません。

「間隔の設定」：等高線が8段階以上の時、中間の等高線の間隔を指定します。2の指数型では、一番BaseLineに近い等高線と次の等高線の間隔を、順に2倍ずつ広げます。1.5, 1.2の指数型は、これが1.5倍, 1.2倍になります。一般的に裾の広いピークの時には2の指数型を選んでください。

「表示モード」：Phase Sensitive(位相検出型)データを絶対値表示にすることも出来ます。位相がどうしても合わないときに試してください。データが元々絶対値の時は設定不要です。

4-5-2 表示範囲の変更

「範囲」：表示するスペクトルのF2軸の左右端, F1軸の上下端を設定します。左端と右端, 及び上端と下端の大小関係には制限はありません。但し, 同じ値はエラーになります。この大小関係によって2Dスペクトルの対角線の向きが変わります。また, この値をあらかじめ設定しておけます。「Default値に設定」をクリッ



図4-49 等高線表示の設定

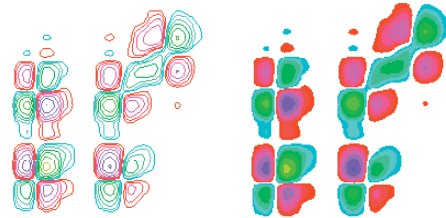


図4-50 等高線表示の例

左：等高線表示, 右：色階調表示

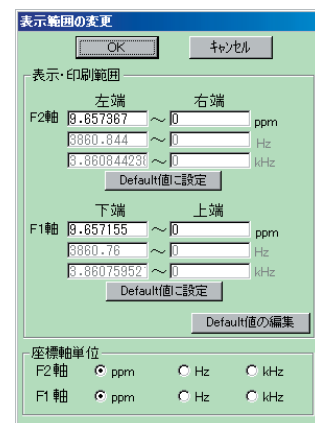


図4-51 表示範囲の設定

クします。

「座標軸単位」：F1,F2軸の単位をppm,Hz,kHzの内から選択します。これは印刷時にも有効です。なお, この単位を変えると, 上記の範囲の設定も変わります。F1軸およびF2軸の左右端の数値はppmとkHz,Hzの単位によって独立しています。(kHzとHzは同じ範囲です)

「Default値に設定」：前記の設定値をあらかじめ設定しておきます。(図4-52)

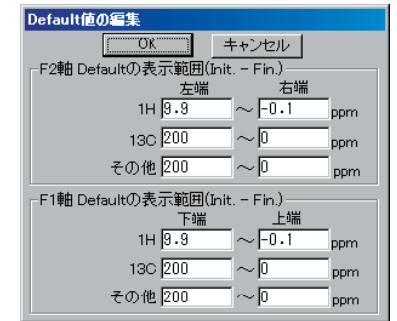


図4-52 Default 値の設定

4-5-3 編集表示用Font等の変更

等高線の色以外は, 表示専用です。印刷には影響しません。

「表示色の設定」：等高線以外の表示物(座標軸など)の色を設定します。色の四角をクリックすると色の選択ダイアログ(図4-59)が開きます。線幅は変更できません。

「等高線の色」：後述の印刷用設定と共通です。そちらで設定してください。

「F1/F2ラベル位置」：横軸単位の「δ/ppm」または「ν/Hz」の表示位置を選択します。

「座標軸の表示モード」：「自動設定」にすると, コンピュータがF1,F2軸に対してそれぞれ適切な数字間隔と目盛り間隔を設定します。

「個別設定」にすると, F1,F2軸に対して数字間隔と目盛り間隔を手動で設定できます。また数値の小数点以下の桁数も設定できます

「座標軸Font」：F1,F2軸それぞれの数値, ラベル(単位)のFontを設定します。変更するときは「変更」をクリックし, 後は画面の指示に従ってください。

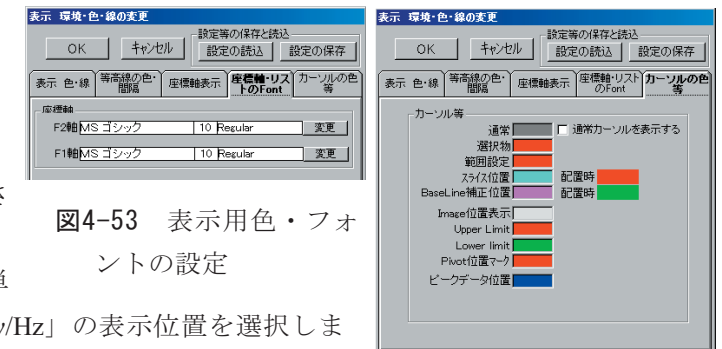
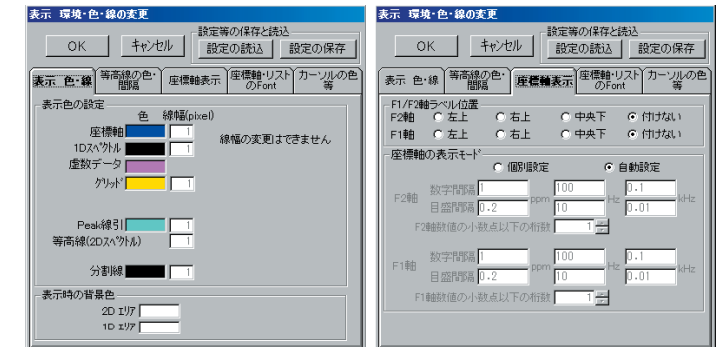
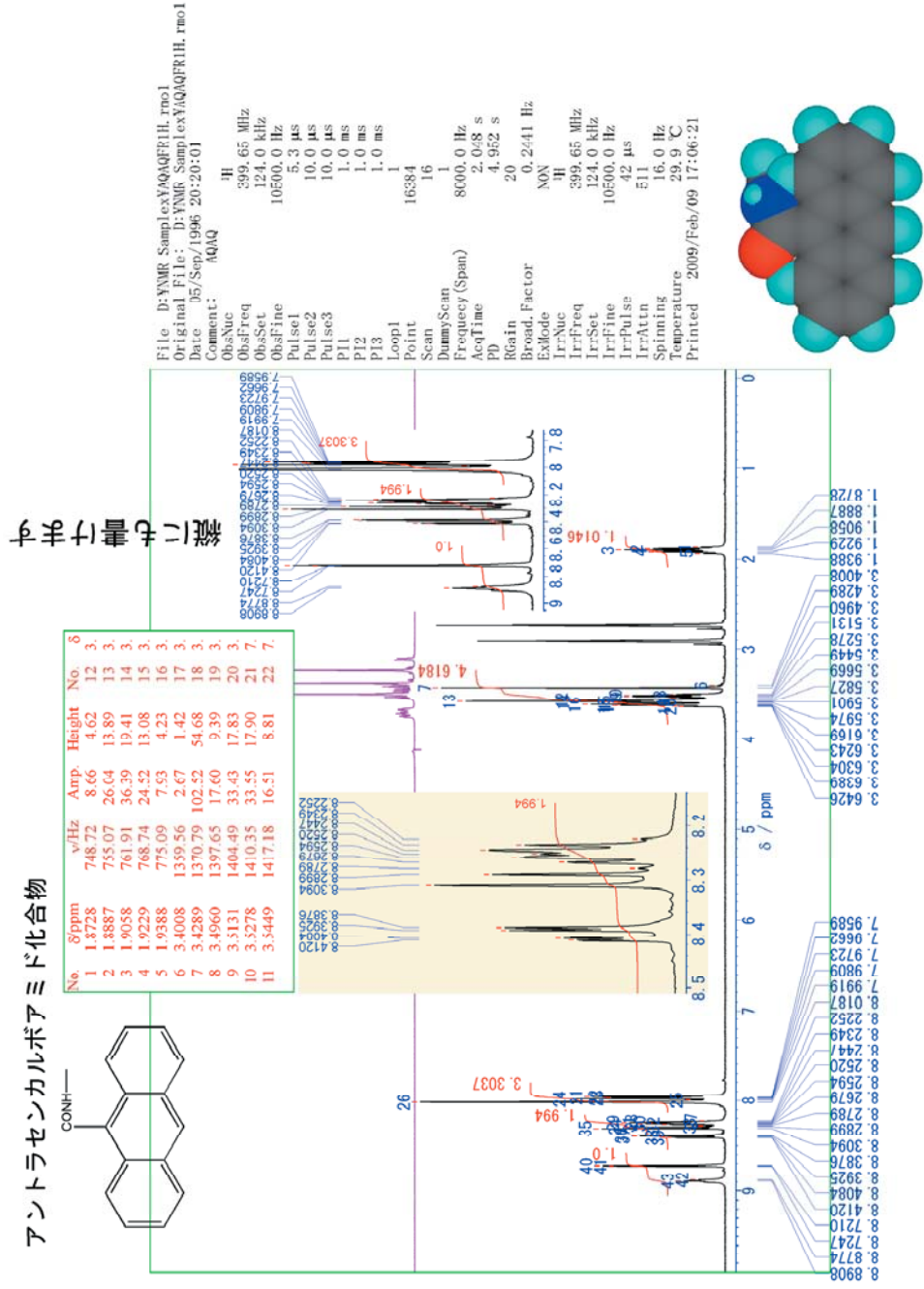


図4-53 表示用色・フォントの設定

(2) 1次元スペクトルの印刷例ー 2



(3) 2次元スペクトルの印刷例ー 1

